

タイトル	イテリメン語のアスペクト接辞 - skne
著者	小野, 智香子; ONO, Chikako
引用	北海学園大学学園論集(187): 35-41
発行日	2022-03-25

イテリメン語のアスペクト接辞 -skne

小 野 智 香 子

0. はじめに

本稿では、イテリメン語 (Itelmen, チュクチ・カムチャツカ諸語) 北部方言におけるアスペクト接辞 -skne の存在, およびその機能について報告する¹。

イテリメン語の定動詞形の構造は(1)の通りである。

(1) 法 + 人称・数 - 動詞語幹 - アスペクト - テンス - 人称・数

イテリメン語北部方言においては、「完了・不完了」という2つのアスペクトと「過去・現在・未来」の3つのテンスを表す接尾辞が記述されてきた (表1)。

表1. 北部方言におけるアスペクトとテンス
(Georg & Volodin 1999: 149, 223)

アスペクト		テンス	
完了	-Ø	過去	-Ø
不完了	-qzu (～-qu～-q)	現在	-s (～-z)
		未来	-a†

なお上の「完了・不完了」という術語は Georg & Volodin (1999) の記述であるが、筆者は Bo-лодин (1976) で記述されていた ‘длительный вид’ (継続相) を採用し -qzu を継続, -Ø を非継続と呼んでいる (小野 2021: 110-117)。

(2)に自動詞 nu 「食べる」の例を挙げる。

1 本稿は令和2年度北海学園学術研究助成を受け、The second conference on Uralic, Altaic and Paleo-Asiatic languages (ILS RAS, Sankt-Petersburg, Oct. 9, 2020) にて発表した内容に修正を加えたものである。

- (2) a. t'-nu-Ø-Ø-kicen (非継続 + 過去)
 IND.1SG-食べる-NDUR-PST-1
 「私は食べた」
- b. t'-nu-qzu-Ø-kicen (継続 + 過去)
 IND.1SG-食べる-DUR-PST-1
 「私は食べていた」
- c. t'-nu-Ø-s-kicen. (非継続 + 現在)
 IND.1SG-食べる-NDUR-PRES-1
 「私は食べている」
- d. t'-nu-qzu-s-kicen. (継続 + 現在)
 IND.1SG-食べる-DUR-PRES-1
 「私はいつも食べている」
- e. t'-nu-Ø-a1-kicen. (非継続 + 未来)
 IND.1SG-食べる-NDUR-FUT-1
 「私は食べるだろう」
- f. t'-nu-qzu-a1-kicen. (継続 + 未来)
 IND.1SG-食べる-DUR-FUT-1
 「私は食べているだろう」

ちなみに(2c)、(2d)は現在形であるが、現在時制とアスペクト接辞との組み合わせは注意が必要である。(2c)のような-Ø-s(非継続+現在)では発話時点の動作を表し、(2d)のような-qzu-s(継続+現在)では恒常的な活動を表す(小野 2021: 110-117)。

1. -skne の機能

さてここから本題であるが、筆者がカムチャツカでフィールドワークを行った中で、上の-qzu, -Ø以外にもアスペクト的な機能を持つと思われる接辞-skneが存在することがわかってきた。接尾辞-skneについて最初に報告したのは小野(2016)である。

- (3) tenitew-skne-iʔn qsas-eʔn mec'anʔk.
 支度する-DUR-3PL 雁-PL.ABS 遠くへ
 「雁たちは遠くへ行く準備をしている。」

- (4) kəman ipɬɰ li pəlq wetat-**skne**-in.
 1SG.ABS.POSS 友人.SG.ABS とても 激しく 働く-DUR-3SG.
 「私の友人はすごくたくさん働いている。」

上に挙げた(3), (4)の例のように, -skne が現れる文はほとんどが現在時制として訳されている。しかしこれまでに知られている現在時制の -s や -qzu-s と -skne の違いについてはまだよくわかっておらず, これらと共に起する例もない。北部方言の話者・コンサルタントによれば, -skne は古い形であり現代では -s や -qzu-s を使うのが普通であるという。別のコンサルタントは -skne は「今までずっと長い間続いている行為」を表しているという。(5)においても -skne が -qzu なしに現在時制の継続相に相当する働きをしていることが読み取れる。

- (5) a. itɰ kwirit-**skne**-iʔn.
 3PL.ABS 警戒する-DUR-3PL
 「彼らは長い間ずっと警戒し続けている。」
 b. itɰ kwirit-ez-iʔn.
 3PL.ABS 警戒する-DUR-3PL
 「彼らは(今)警戒している。」

2. -skne と人称

例文(3), (4)では継続相を表す -qzu は現れていない。(3), (4)のように, 接尾辞 -skne が3人称主語の場合に現れる文は51例が記録されている。また1人称主語で -skne が現れる文は5例見つかった。(6)は1人称主語の例である。

- (6) oj laq-aq, t-qetit-**skne**-kicen.
 INTRJ 寒い-ADV IND.1SG-凍る-DUR-1
 「ああ, 寒い, 私はもうずっと凍えている。」

2人称主語における -skne の出現は1例も見つかっていない。筆者が作例した2人称主語の例(7)も話者に容認されなかった。

- (7) a. *kza wetat-**skne**-c?
 2SG.ABS 働く-DUR-2SG
 「おまえはずっと働いているのか?」

- b. *c'inəŋq q-zunɬ-skne-xc!
 よく OPT2-暮らす-DUR-OPT.2SG
 「元気で暮らせよ。」

(7)は疑問文と命令文であるため平叙文を確認する必要がある(ただしイテリメン語では疑問文と平叙文の違いはイントネーションのみである)。*-skne* が現れるのは3人称主語の場合であることが圧倒的に多いと言える。

3. *-skne* と時制

接尾辞*-skne* が現れるケースではほとんどが現在時制であることを上で見たが、まれに過去の文脈と解釈できる例がある。コンサルタントによれば、(8)では過去を表す形動詞形 *k-cəŋaja-qzu-knen* と *cəŋaja-skne-in* が交替可能であるという。

- (8) k'-ənzolŋa-an nin qosχ, a enu tenaq k-cəŋaja-qzu-knen/cəŋaja-skne-in.
 AP-寝かせる-AP.SG 3SG 犬.ABS.SG CONJ それ 再び AP-唸る-DUR-AP 唸る-DUR-3SG
 「犬を寝かせたが、それ(犬)は再び唸り続けていた／唸り続けている。」

-skne について小野(2016, 2021)では現在時制として位置付けていたが、(8)のようなケースを考えると *-skne* はテンスについては一義的ではないという可能性も残されている。

4. *-skne* の位置

-skne は継続相と似たような働きをするが、*-qzu* との関係性については不明な部分が多い。ただし(9)のように不定詞の中に *-skne* が現れる文が1例のみ記録されている。

- (9) xot^j maacχ-ank wetat-skne-kes.
 せめて どこか-LOC 働く-DUR-INF
 「せめてどこかで(長期間)働くことが(できたらいいのに)。」

接辞が不定詞の内部に現れている、すなわち *-skne* は屈折接辞ではなく派生接辞である可能性がある。(1)で述べた動詞の構造と合わせて考えてみよう(図1)。

図 1. 動詞の構造と接辞の位置

屈折接辞			屈折接辞		
法 + 人称・数			アスペクト	テンス	人称・数
直説法	1sg	1pl	-qzu 継続相 -Ø 非継続相	-Ø 過去	1sg 1pl
仮定法	2sg	2pl		-s 現在	2sg 2pl
希求法	3sg	3pl		-aɬ 未来	3sg 3pl

動詞語根	派生接辞
jəlqe 「眠る」 wetat 「働く」 など	-t 反復 -sxen 多回・複数 -skne 長時間 (?) など

-skne が仮に(9)のように不定詞の中に現れて動詞語幹を形成する派生接辞だとすれば、屈折接辞である -qzu や -s などとは違うカテゴリのものであるとも考えられる。しかし -skne を伴う不定詞は現在のところ(9)のみであり、その生産性が高いとは言えない。

5. -skne と自他

-skne が現れる動詞を調査してみた結果、自動詞の場合にのみ現れており、他動詞に付加された例は記録されていない。テキスト中で -skne を伴って現れた自動詞は次の通りである：wetat 「働く」、jəlqe 「眠る」、qetit 「凍る」、tenitew 「準備する」、nəskla 「恥ずかしがる」、caca 「泣く」、kərwel'at 「話す」、cəŋaja 「唸る」、ŋrep 「歌う」、inkilit 「書き物をする」、qəmlolk 「脳みそを食べる」、kejno 「唸る」、cŋew'it 「口論する」、kwirit 「警戒する」、wiwe 「吹く」。筆者が面接調査した中では wetat 「働く」に -skne が付加された wetatsknein 「(彼は) 長い間働いている」がもっとも多く観察された。なお、他動詞に -skne を付した(10b)は話者に容認されなかった。

- (10) a. n'ien'ekēcχ nənc tχəl-Ø-ez-nin.
 子供.ABS.SG 魚.ABS.SG 食べる-NDUR-PRES-3>3SG
 「子供が魚を食べている。」
- b. *n'ien'ekēcχ nənc tχəl-skne-nin.
 子供.ABS.SG 魚.ABS.SG 食べる-DUR-3>3SG
 「子供が(長い時間) 魚を食べ続けている。」

6. -skne と他のチュクチ・カムチャツカ諸語との関係

小野 (2021) で指摘したように、イテリメン語北部方言の -skne はチュクチ・コリヤーク諸語と同じ起源を持つ可能性が考えられる。呉人 (2001) によれば、-rkən は現在時制において発話時点で進行中の動作・行為を、未来時制においては接頭辞 re- を伴い不完了を表す。コリヤーク語では「未来 II」を表す形式のうち je-/ja-..ikən(i)/-ikən(e), アリュートル語では -tkə~tkən~tkəni という接辞が不完了を表すとされている (Жукова 1972: 239-240, Нагаяма 2003: 99)。

また、接辞頭の子音にある程度規則的な音対応が見られる。表 2 は -skne の頭子音の対応と、それに近い音対応を持つ「膿」という語を並べたものである (「膿」を意味する語彙は Kurebito et al. 2001 から抜粋)。チュクチ語・コリヤーク語・イテリメン語でそれぞれ /r/—/i~j/—/s/ の対応があることがわかる。

表 2. -skne の頭子音の音対応

	チュクチ語	コリヤーク語	イテリメン語
動詞接尾辞	-rkən	-ikən	-skne
「膿」	rəqirəq	jəqijəq	sqejo

チュクチ・コリヤーク諸語とイテリメン語は語彙・音韻・文法において差異が大きく、上の規則的な音対応を持って「イテリメン語とチュクチ・コリヤーク諸語は同系である」と断定するわけではない。しかしながら -skne との音韻対応が見られるチュクチ・コリヤーク諸語の動詞接尾辞が「進行中の動作」や「不完了」といった機能を持つことを考えれば、これらの起源が全く関係ないとは言い切れないことも事実である。

7. ま と め

以上、動詞接尾辞 -skne についての議論をまとめると (11) のようである。

(11) 動詞接尾辞 -skne は

- イテリメン語北部方言においてのみ現れ、南部方言には存在しない
- 動作・行為が長時間・長期間持続していることを表す
- 1 人称または 3 人称の主語とのみ共起するが、2 人称主語で現れる文は記録されていない
- 屈折接辞のテンス・アスペクト標識 -qzu, -s, at とは共起しない
- 自動詞にのみ現れ、他動詞に付加される例はない
- 多くの場合現在の文脈で使用されるが、時制の制限はないのではない

- g. 不定詞 (-kes) の語幹内に現れる例から、屈折接辞ではなく派生接辞の可能性も排除できない
- h. チュクチ・コリャーク諸語におけるテンス・アスペクト形式 -rkən/-ikən/-tkən と同起源の可能性はある

-skne は話者自身に「昔の言い方」と認識されており、その生産性は高くない。平叙文での2人称における使用制限があるかどうか、また -skne が現れる文において同時に使用される副詞や文脈に制限があるかなどについても精査する必要があるだろう。

略号：

1：1 人称	2：2 人称	3：3 人称	ABS：絶対格	ADV：副詞
AP：形動詞	CONJ：接続詞	DUR：継続相	IND：直說法	INF：不定詞
INTRJ：間投詞	LOC：場所格	NDUR：非継続相	OPT：希求法	PL：複数
POSS：所有	SG：単数			

引用文献：

- Georg, Stephan, Volodin, Alexander P. (1999), *Die itelmenische Sprache. Grammatik und Texte*. Tunguso Sibirica 5. Wiesbaden: Harrasowitz
- Kurebito, Megumi (ed.), Tokusu Kurebito, Megumi Kurebito, Yukari Nagayama, Chikako Ono, Mitsuhiro Yazu (2001), *Comparative Basic Vocabulary of the Chukchee-Kamchatkan Language Family: 1*. Osaka: Osaka Gakuin Univ.
- Володпн, А. П. (1976), *Ительменский язык*. Ленинград: Наука.
- Жукова, А. Н. (1972), *Русско-корякский словарь*. Москва: Советская энциклопедия.
- Нагаяма, Юкари (2003), *Очерк грамматики алыторского языка*. Осака-Гакуин ун-т.
- 小野智香子 (2016) 「イテリメン語の動詞の構造 —西部語北部方言の記述研究—」 博士学位論文, 千葉大学
- (2021) 『イテリメン語文法 —動詞形態論を中心に—』 北海学園大学出版会
- 呉人徳司 (2001) 「チュクチ語動詞派生形態論」 博士学位論文, 京都大学